

第57回愛知県公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時

令和4年7月11日（月）午前9時25分から午前11時20分まで

2 場 所

愛知県議会議事堂 5階 大会議室

3 出席者

委員 5人

説明のために出席した者 15人

4 傍聴者

0名

5 議 題

- (1) 2021年度業務実績について
- (2) 役員報酬規程の改正について

6 議事概要

【2021年度業務実績について】

- 愛知県公立大学法人の2021年度業務実績について、法人からヒアリングを行った。

【役員報酬規程の改正について】

- 原案について「意見なし」とした。

【質疑】

(1) 2021年度業務実績について

○ 委員

ご説明ありがとうございました。県立大学のほうで、ご質問を2つほど。項番18のほうの自己評価がⅢになっていますが、指標を超えて3件採択できているということにもかかわらず、この評価になっていることに対して、改めてご説明いただきたいなと思います。

また、項番19についても、かなりいろいろとご説明いただきましたが、一点、事前説明の際も質問しましたが、外部資金の運営について、資金の継続性がどの程度なのかをもう少し詳細にご説明いただいて、Ⅳ評価に至る経緯をご説明いただきたいと思います。

法人運営のほうは特にはございません。

芸大項番40について、名工大アートフル計画の件について口頭でご説明がございましたが、詳細について実績報告書に記載がないのが残念なくらい素晴らしいと思っています。記載したらよいかと思います。

○ 県立大学

項番18でございますけれども、確かに指標を上回っております。このままでいけばⅣ評価になるところです。ですが、項番19をぜひともⅣにしたいという気持ちが大変強かったため、あまりⅣを乱発しても自画自賛のようになるのではという自制の念が働き、大変迷いましたが項番18については自制しました。

質的には項番19のほうⅣ評価にふさわしいと考えています。質的にと申しますのは、項番18はあくまで学内の競争的配分であり、もっと量・質ともにたくさん出てほしかったという期待がございましたので、Ⅲ評価といたしました。二つ目の「○」に記載した「愛知県におけるコミュニティ通訳に関する調査」は、コミュニティ通訳学コースを開設するにあたりまして、大変重要な調査でしたので、Ⅳ評価にしたい思いもありましたが、遠慮したというのが本音でございます。

項番19について、データ集には出しにくかったものですから口頭で説明いたします。ICTテクノポリス研究所は、国の機関から550万円ほど、民間企業の団体である中部経済連合会から15万円をいただいています。生涯発達研究所は、科学研究費が420万でございます、間接経費と合わせると720万円程度でございます。“まもるよ ちいさないのち！”地域災害弱者対策研究所は、中川区のほうから8万円、少額ではあるのですが、研究所を運営するには

支障がないということで、すべて外部資金で運用しています。ごく一部学内予算も入っております。

○ 委員

前二つの研究所は、外部資金だけで運営ができていますか。

○ 県立大学

I C Tテクノポリス研究所は、外部資金だけです。生涯発達研究所は、科学研究費が下りてくるのが遅かったため、約20万円の学内予算を使っています。100%ではないですが、90%以上は外部資金です。今年度は、外部資金だけで運営しております。

○ 委員

まず、新しいカリキュラム「県大世界あいち学」を発足され、また、外部資金を獲得されたということで、おめでとうございます。事前のご説明の際も伺ったのですが、「県大世界あいち学」の今後の運営体制について、何かお考えのこと、特に注意されていることがあれば教えていただきたいのですが。

○ 県立大学

運営体制については、教養教育センターが行っています。アンケートをとっておりますので、現在は学生達の声を聴きながら、どんなふうに充実させていくか考えていく段階で、その後に体制をどうするかの問題が出てくると思います。昨年始まったばかりですので、次の第四期中期計画に、課題を渡していくという考えでおります。

○ 委員

他の大学でもよく耳にするのですが、私が所属する大学でも、10年前に当時の学長が、J I C A、新聞社、テレビ局、名古屋市等々、提携した新しいタイプの教養科目を作ろうと構想しました。さらに、これは県立大学とも同じなのですが、グローバル人材の育成の補助をいただいたので、これに伴う新しい科目の立ち上げも必要となりました。ところが、教養担当の部署は、忙しさと人材の不足などを理由に引き受けてもらえませんでした。当時学長の補佐を務めていた関係から、私が二つの科目の立ち上げを任されました。

ところが、苦勞して立ち上げたのですが、なかなか運用を引き受けてもらえず、10年たっても自分がやっております。また、属人的な形で始まりますと、担当者の変更に対応できないという問題があり、提携先の組織の状況が変わっ

た時に提携が立ち消えてしまう、等の問題が出てきます。組織としてどうやってディベロップメントするのか、組織的に運用していくか、環境が変わる中でチェックして、次の開発につなげていくか、というPDCAサイクルが、私の所属しているところでは、あまりうまくいっていないのかなと感じています。

「県大世界あいち学」は学長のイニシアティブの下で始まった優れた試みなので、今後も継続して発展できるような体制を作られるとよいかなと思います。

○ 県立大学

大変貴重なご意見ありがとうございました。新しいものを作る時にリスクはつきものですが、外部資金をもらったから作るのではなく、中期計画を策定するときから頭に置いていました。一人の人が全部やらなければならないわけではないので、その点は心配しておりません。

5学部の連携で、5学部の先生が5学部の学生に教えます。教養科目ですから、いろいろな学部の授業を受けるのが大事です。また、先生方は、自分の専門の学部以外の学生、文系の先生が理系の学生に、理系の先生が文系の学生にどうやって教えるのかというのは大変難しいですが、そこは我々が努力をしなければと思います。県民の方に自分の専門を伝えるのが難しいという思いが常にありまして、教養科目というのは学生に対して伝えるだけではなく、その向こうにおられる県民の方々にも伝わるような授業をしてほしいというのが私の希望です。

採用というのは、中期計画を作る時に、愛知県にはブラジル籍の方が比率で言うと全国一多いです。そういう地域でございますので、ポルトガル語のネイティブ教員を新しく昨年採用し、教養教育の一部を担ってもらっています。

現在一人に負担が偏ることにはなっていませんし、もしそのようなことがあれば、すぐに変えなければいけないと思っています。

○ 委員

大変安心しましたし、今後とも発展を続けられるだろうと思いました。私も豊田市の国際交流で一度科目を組んだのですが、いろいろな事情で、3年で止まってしまったので、大変悔やんでおります。是非とも今後も頑張っていたきたいと思います。

○ 県立大学

課題はたくさんございますが、外部の方に授業をやっていただくというのは、授業計画の中に入っております。次の年度はどこの企業の方、どこの自治体の方にやっていただくのかというのは、毎年頭を悩ませていますが、ご理解をい

ただいで、続けていきたいと思っています。

○ 委員

コロナ禍でありながら、着々と目標、計画を推進しておられるということがよく分かりました。県立大学の項番23、産学官の共同の推進について、評価委に関することではないのですが、関心があります。中経連や愛経協と、どのような形で推進してらっしゃるのかを教えてください。

また、芸術大学におきましても、項番40の科学研究費及びその他補助金23件中採択されたのは12件ということで、素晴らしいことではないかと思いますが、毎年どれくらいの件数を採択されているのかを教えてください。

○ 県立大学

項番23に関しまして、中部経済連合会とのDXについては、情報科学部とICTテクノポリス研究所が関わって、「中小企業DXに関する調査研究」を教員、学生が研究しています。

科研費につきましては、大変悩ましいですが、申請率は80%程度、つまり全員出していない状況です。せめて90%にはなっしてほしいと思っていますが、なかなか上がっていきません。採択率は例年大体30%前後ですが、2021年度は下がってしまったことで、非常に残念に思っております。ただ、既に科研費をもらっている方は申請しないものですから、この方々が半数程度なので、この数字を上げていきたいと考えています。また、研究所改革をいたしましたのも、大型の科研費が欲しい、共同研究を行ってほしいということもあったのですが、なかなか一朝一夕では意識が変わっていきません。我慢しながら少しずつ意識を変えていくように努力をしていきたいと思っております。

○ 大学法人

ご指摘の中部経済連合会と大学の交流についてということで、7年前は中経連と大学との交流は、どの大学とでも非常に乏しいものでした。最近状況が変わったなと思うのは、昨年からは、名古屋大学の総長と信州大学の学長が中経連の評議員に就任されて、中経連でも大学を重視しているなというのが見えてきました。

一貫して大学と企業の交流は様々な意味で重要だと考え、中経連の会合にはほとんど出ています。大学は人材を育てるところであるし、卒業した学生が地元の企業に勤めていくうえで、地元企業の動向を知っておくことは非常に重要だとの思いからです。また、中経連の10ほどの部会の中で、人材育成委員会と国際委員会という2つの委員会の副委員長を、企業の方々と共に担当しており

ます。このような意識的な取り組みの中で、芸大は中経連の会合の中で、芸術分野の講演をしてくれということ、芸大の先生がしらかわホール等で企業の方角への講演をされています。また、県大は、愛知県在住の外国人の方々に対して、企業とともに、どのように例えば日本語教育をやらしてもらえるのか、という非常に強い要望がきております。このようなところでも、中経連との連携が始まっております。このような感じで、両大学は産学官というところで関わっています。

○ 委員

若い方々のポテンシャルを生かす場を積極的に後押ししてほしいと思います。

○ 芸術大学

我々の指標は、「科研費及びその他の助成金を合わせて毎年20件以上」です。科研費だけに限ると、毎年申請数が10件前後です。採択率は年によりますが25%程度です。科研費は基本的には3年くらい続きますが、現在、新規と継続中のものを合わせると科研費の研究代表者については15件、研究分担者については7件、合計で22件です。大学の規模や事務方の規模からすれば、適正ではないかと思えます。

○ 芸術大学

科研費に関して付け加えさせていただきます。科研費の項目には芸術関係の申請項目が少なく、例えば石彫をやっている研究者の方や、バイオリンの演奏をしている方などを考えると、なかなか当てはまるものがなく、難しいです。そのため、第二期中期計画から、美術、音楽に関する助成金も加えて、科研費と助成金の両方が入る指標としましたこととお汲みいただきたいと思えます。

○ 委員

指標と自己評価の関係について、指標をどの程度重視されているかを聞きたいと思えます。例えば県立大学の項番22ですけれども、去年は意見交換会3回、共催事業・貢献活動は4件実施ということでした。今年は意見交換会5回で、共催事業・貢献活動1件です。去年は、この項番22はⅢの評価です。それに対して今年はⅣの評価としています。おそらく、指標以外、内容で判断されたのだと思うのですが、それならば指標とは何なのか、というのがよく分かりませんので、質問させていただきたいと思えます。

これに関連して、例えば項番18、19なのですが、それぞれ今年はⅢ評価

とⅣ評価ですが、昨年はⅣ評価とⅢ評価でした。今後第三期中期計画6年間の、全体の評価をしなければいけないと思うのですが、第二期の時も、6年間でⅢとⅣがそれぞれいくつあるのかをある程度重視しました。隔年でⅢになったりⅣになったりするのではなく、ある項番については、ある程度ⅣならⅣと重視して、できるだけ重点的に活動する方が、6年間でⅢが4つⅣが2つなどになるよりは、よいのではないかと思います。ⅢとⅣが入り混じると、結局全部Ⅲ評価とせざるを得なくなります。そのあたりをお考えいただきたいと思います。

また、芸大の項番40についてもそうなのですが、昨年度は申請30件採択9件でⅢ評価です。指標は、申請が20件以上とあります。今年度は申請23件採択12件でⅣ評価です。このあたりも後程理由をお聞かせください。

また、法人の項番46の指標ですけれども、トップマネジメント事業費が今年度は3600万円、昨年度は1900万円です。昨年の約2倍になったのに、なぜⅢ評価とされたのでしょうか。自己評価と指標との兼ね合いをどう考えられているのかをお聞かせください。

○ 県立大学

おっしゃってくださった、「6年間でⅣ評価になるように」というのは、その通りだと思いました。私どもはどうしても単年度で考えていて、去年と比べてどうだったかを考えます。先程も申し上げましたが、あまりⅣを出しすぎると、自分達に甘いのでは？と判断されると思い、Ⅳは3つから4つまで、こちら側で自己規制が働いてしてしまっていました。今年はこれをⅣにしたいから、こちらは仕方ないがⅢにする、という発想でしたので、委員のお考えを伺って、考え直さなければなと思いました。

6年間の中期計画ですので、6年間でどう評価するかを考えなければいけないのではないかと思います。反省というか目を開かれたと感じております。

指標は、クリアしているものがいくつかありますが、指標は一つの目安ですので、内容的に意味があったもの、今年度の目玉として出したいものをⅣ評価としたいと考えたとき、指標は超えていても、Ⅳ評価のオンパレードは自画自賛になってしまうのではという意識がございまして、「指標の意味は何ですか」と言われる事態になっているというのが実態でございます。

指標を上回っていれば、Ⅳ評価にしてよいのでしょうか。

○ 委員

内容はもちろん重要ですが、昨年度Ⅳにしたのが、なぜ今年度Ⅲになるのか、あるいはⅢ評価からなぜⅣ評価にするのか、皆さんが納得できる説明をしてほしい、というのが私の希望です。私はたくさんⅣ評価をつけてもらっても結構

だと思えます。評価するのは我々ですから、それによって妥当でない判断すればⅢ評価とします。

○ 県立大学

評価軸の発想が全く違っていたということがよくわかりました。単年度で、横並びで、こちらの項番はⅣだからこちらはⅢにしようという発想でやっていたので、先生がおっしゃったとおり、前年度の同じ項番の評価との比較、6年間という単位で考えていくことの大切さを教えていただき、大変ありがとうございました。

○ 芸術大学

指標に関しては、どう判断するかは難しい問題です。昨年度もう少し申請件数が多かったにもかかわらずⅢにして、今回は少ないにもかかわらずⅣにしている。これは、内容で判断していると思えます。例が適切か分かりませんが、私は音楽家ですけれども、本番の数が多ければいいというものでは全くない。どういった質の演奏をやっていくかが大切です。我々はそういう考えを基に内容で判断していますので、ご理解いただきたいと思えます。

○ 芸術大学

評価の違いは、コロナの影響が大きいと思えます。外部との共同研究が中止になる等があり、本学でも2020年度はコロナの先行きが分からず、研究室の使用規制も重なり、共同研究は控え目になっていました。今年度は下を向いてばかりはいられないということで、より積極的になっていったというのが、共同研究の数につながっていると思えます。科研費については、例えば申請は2020年度でも、その準備は2019年度や2018年度から行っています。2021年度の件数の少なさは、2020年度にコロナの影響を見て、研究室も使えるか分からないということで、消極的になった部分があったと思われまいます。ご理解いただきたいと思えます。

○ 大学法人

項番46について、トップマネジメントの関係でございしますが、指標は1%以上でございしますので、1.64%と指標は超えています。しかし、Ⅲ評価の「十分に実施している」の範囲内であり、「上回って実施」とは言えないと判断しました。また、コロナ対策には力を入れ、職域接種は法人の予算もつぎ込んで実施しましたが、県大・芸大だけでなく、他の大学も同様のことを行っている状況にありまいましたので、Ⅲ評価としました。しかし、コロナのワクチンについ

て、学生が市町村等からの案内を待つことなく早くに接種できたのは、とても効果があったと思いますし、県大、芸大の教職員のみならず、近隣のリニモ、愛環鉄道、科学技術交流財団、愛・地球博記念公園事務所などの職員のほか、名古屋商科大学の一部の学生にも接種を行い、地域貢献も果たしているところでございます。こうしたところを評価いただき、Ⅳ評価をいただけるのでしたら、大変ありがたいと思っております。

○ 委員

県立大学の項番5、大学院教育において、コミュニティ通訳学コースの開設は素晴らしいと思います。コミュニティ通訳を育てるということ自体は、地域のニーズに応えるという点で素晴らしいと思うのですが、大学院ですので、研究をすることが求められていると思います。プロフェッショナルを養成するという趣旨は理解できるものの、コミュニティ通訳学ではどのような研究をされるのでしょうか。

それから、芸術大学に関してですが、地域貢献の取り組みは素晴らしいと思います。名古屋大学で、毎年キャンパスコンサートを開催していただいています。コロナ禍で人数制限が課されている中ではありましたが、多くの人々が久しぶりのコンサートを楽しませていただきました。そのように先程項番39、42についてご説明ございましたように、地域貢献、国際的な発信という点で、大変ご尽力されており素晴らしいと思いました。

項番39と42に関連することですが、昨年度の評価委員会で、委員のご質問への回答として、芸術大学のせっかくの緑豊かなキャンパスを生かしてグラインドボーン音楽祭のようなものを企画できたらという回答を伺って、個人的には大変賛同の念を覚えたことを記憶しております。私が委員になって最初の年にも、グラインドボーンやタングルウッドの音楽祭のようなものを、せっかくのキャンパスの立地を生かして実施できないだろうかということをお尋ねしたことがあったのですが、今回ジブリパークができる絶好のタイミングであり、ジブリパークでそうした野外音楽祭を、芸大とジブリパークとの共催のような形でできるのではないかと個人的には思います。そうした可能性につきまして、何かお考えがあればお聞かせいただきたいと思っております。

また、項番45で、Webサイトの充実に努めていらっしゃるのには拝見してよくわかりましたが、残念ながら緑色の細かいフォントがとても見にくいと感じたので、もう少し見やすさに配慮いただいたほうが良いかと思われました。

○ 県立大学

コミュニティ通訳学コースのことなのですが、いろいろなコミュニティで、

いろいろな外国籍の方へのサポートがあちこちでされていますが、逆に言いますと教育を受けていない人が、善意で、ボランティアでやっていらっしゃるケースが多いと聞いております。きちんとした訓練された方を育成しようとしてコースを作ったというのがポイントになると思います。補足をお願いします。

○ 県立大学

先生のご質問の意図は、いわばスキルフルな実践者の育成ということもさることながら、「学」として立てた以上、研究としてどうなのか、というお話かと思えます。コミュニティ通訳学は、海外では非常に認知されていますが、日本ではきちんとした認知がされていません。その中で、一つの研究学問領域として打ち立てたという意味が、本学としてはあります。このために採用した先生もそのことを自覚されて、単なる言葉の媒介者ではなく、そこに含まれる、意思疎通に限らない様々な問題を、通訳「学」という以上は、翻訳・通訳に限らない一見何の関係もないようなものも含まれているということを伺っています。

私自身、この先生とコンタクトをとって話を伺っていますが、「通訳・翻訳学」は日本に入ってきたばかりですので、これからどういう研究テーマを立てていくかというのは、おそらくどういう研究に基づく教育がここで行われるかによって、楽しみでもあれば、心配でもある、非常に可能性を含んでいる段階です。日本では、「通訳・翻訳学」が、ようやく「学」として認められるようになったというのは、例えば国際学会が9月に本学で開かれるなど、学問領域と連動してやっていることを付言させていただきます。

○ 委員

最後に、両大学に関わることです。先程の委員のご指摘にも関わることでございますけれども、昨年度2回目の委員会の時に法人にお伝えくださいと事務局の方にお願ひしましたことでもあるのですが、年度計画の書きぶりについてです。両大学とも、「〇〇を検討する」という表記が非常に多くみられます。これですと、指標の問題もさることながら、指標が設定されていない年度計画の場合、「検討する」という書きぶりですと、なかなか評価が難しいと思います。できるだけ「検討する」ではなく、具体的に「〇〇を実施する」とか「〇〇を決定する」「〇〇を確定する」「〇〇を構築する」といったように可視化できるような年度計画を策定していただければ、評価する側にとってはありがたいと思いますので、ぜひ、来年度よろしくお願ひします。

○ 芸術大学

項番39の教員の芸術活動について、個人的には、コロナ禍でよくやっているなと思いますが、数からいうとどうしても数が少なくならざるを得ないのでⅢ評価としています。Ⅳにあげてもいいくらい先生は頑張っていると思っています。

項番42の、キャンパスを利用したグラインドボーン等の構想については、新音楽学部棟の斜面を利用して、目的積立金を使って客席を設けて、地形劇場という名前の屋外劇場を作ることが決まっています。今年の12月に完成します。そこを中心として、今のところの計画では来年度のゴールデンウィーク前に、キャンパスを1日開放し、ピクニック気分で、キャンパスの中で、音楽と美術と、アートを楽しんでいただくことを計画しています。より充実した客席を作りたいということで、6月いっぱい、本学初めてのクラウドファンディングを行いました。最初の設定額は300万円のところ、結果的に780万円の寄付が集まりました。グラインドボーンまでいけるかはわかりませんが、美しいキャンパスを利用して、始めていきたいと思っています。

ホームページについては、この春にリニューアル予定でしたが、遅れています。必ず来年度4月までにはリニューアルします。ご指摘いただいたことについても、注意して掲載していきたいと考えています。

○ 芸術大学

ジブリとの関係性ということで、メディア映像専攻そのものが県とジブリと大学が連動して立ち上がったこともあって、授業形態の中にレクチャーが入っていく予定はあります。また、先程お話があった地形劇場、これはジブリの開館には間に合わないですが、それと連動して県政150周年で、作品のような大きな看板を、グリーンロード沿いに置いて、ジブリパークのお客さんにこの森の奥に大学があるということを認識してもらいたいと思っています。

また、先程名工大との連携の記載がないというご指摘をいただきましたが、壁画制作等の準備は前年度からしていますが、包括的連携に関する協定の締結が2022年4月1日だったため、今回の2021年度実績報告には載せませんでした。2022年度の実績報告にはしっかり載せていきたいと考えています。

○ 愛知県

この評価委員会では第三者的立場でありますけれども、両大学からお話しいただいたことについて、少し補足させていただきます。

まず、コミュニティ通訳学コースの関係でございますが、私ども県民文化局では、多文化共生ということで、外国人県民の方への支援が大きな柱です。そ

の中で、本県は外国人の数が全国第2位であり、今はコロナで止まっておりませんが、今後も大きく伸びると予想しております。

昨今の通訳支援の関係で、県としても非常に特徴的なことが見えてまいりまして、第一点はこのコロナ禍でございます。県下の病院から求めがあった場合、県の事業として通訳の派遣を行っていますが、コロナ禍で件数が莫大に増えました。その中で人手が足りないこと、また、医療通訳でございますので、専門性、緊急性が非常に求められる分野ですので、既存の通訳学の勉強だけでカバーしきれないという不安が見えてまいりました。

また、もう一点、愛知県の外国人県民の特徴としまして、ブラジル国籍の二世、三世の方が根付かれていることによりまして高齢化の問題が起こってまいりました。最近の通訳は、文化や生活等の、伝達以外にも、福祉の関係の専門的な通訳が求められることが非常に増えてまいりまして、言葉の問題だけではなく、社会制度を熟知されている通訳の方が必要になってくるだろうと思っておりますので、県立大学さんの、通訳を養成する学としてのメソッドを、ぜひ確立をお願いしたいというのは、県としても強く考えております。

また、芸術大学さんの地形劇場の件ですが、クラウドファンディングのお話をしていただきましたけれども、地域貢献の意味で申し上げますと、近隣の住民の方々に広く知っていただき、共感していただくというのが重要だと思っております。外部資金の獲得という意味ももちろんありますが、クラウドファンディングで共感をしていただいて賛同していただくのは、非常に良い手法だと思っております。今後もこういうやり方をぜひ考慮に入れただけるといいなど、設置者側としては、両大学に期待しているところでございます。

○ 委員

地形劇場について、とても楽しみにしています。また、通訳学を学問分野として発展させることは大変ニーズの高い取り組みだと思っておりますので、発展を期待しています。

それでは、他にご意見・ご質問のある方はいらっしゃいますか。

○ 委員

質問ではないのですが、1年ほど前に韓国の領事と会った際に聞いたのですが、韓国では、ジブリパークの開園に合わせて日本に旅行に行きたいと言っている方が多くいらっしゃるとのことでした。ジブリパークは県も大変力を入れているものですし、愛知県には韓国に限らず、いろいろな領事館がございます。県立大学、芸術大学も、ジブリパークの開園をうまく利用して、領事館等と協力しながら、国際的な発信をしてはどうかと思っております。

○ 委員

ありがとうございました。それでは、他にご発言が無いようですから、次の議題に移りたいと思います。

(2) 役員報酬規程の改正について

○ 委員

今回の変更につきまして、御意見、御質問があれば挙手をお願いいたします。
(挙手なし)

よろしいでしょうか。それでは、ご意見が無いようですので、評価委員会とし「意見なし」ということにさせていただきます。

本日予定しておりました議題は、全て終了いたしました。長時間にわたり、円滑な運営に御協力くださりまして誠にありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しいたします。

○ 事務局

ありがとうございました。最後に、事務局から事務連絡をさせていただきます。次回8月2日火曜日の評価委員会では、本日のヒアリングを踏まえ、評価の素案につきまして、ご審議いただく予定でございます。よろしくをお願いいたします。以上です。本日はありがとうございました。

以上

会議録署名人

会議録署名人